



復刊第82号

題字 吉岡弥生

この頃思うこと



副会長 福永 ひろ子

三月に入って、寒の戻りというのか、私の住む箱根は、風花の舞う毎日であるが、時々射す陽の光に、春の匂いが溢れて、庭の隈の霜柱をちよつとはらうと、黒土の中に、草の芽が、淡い緑色をのぞかせている。

今朝初めて、裏山に、鶯の声を聞いた。毎年きままって同じ所から「ホーケキョ、キョ」とまだ満足に鳴けないのか、精一杯の幼い声で、春の到来を告げてくれる。

世の中がせちがらくなっても、自然の営みは、間違ひなく巡って来るものと感心する。

一九八〇年を、大きな期待をもって迎えたが、国の内外を問わず、あまりにも多くの問題、事件が起っているのに驚く。

世界経済の根底をゆるがす中東諸国の原油値上げ。イラン大使館のインフレの進行は止まるところを知らず、インドシナでは、イデオロギーの非情さをむき出しにした動乱の渦中であり、すでにカンボジアでは、三百万人が死に、陸つたいにまたボートで逃れた難民は数十万人に達するという。栄養失調でやせ衰えて目だけギョロギョロ光らせた難民の子供の目をおおう様な報道写真を見る度に、何かをしてあげたいとの思いにかられる。単に経済援助のみで事たりとする日本政府の(難民の受入れ枠はわずか五百人に過ぎない)あり方に反発して、民間団体「インドシナ難民を助ける会」が昨冬設立されて、わが日本女医会も加入した事は、前号会長のご報告の通りである。

国内においては、相つぐ公共料金の値上げによる深刻な不況、KDDの呆れた乱脈振り、早大の不正受験事件等々。それにも増して、昨年来引きつづいて発生している小学生の自殺や殺人事件のショッキングなニュースを聞く度に、やりきれなさと共に胸のしめつけられる様な思いがする。小学校六年生の少年が近所の幼稚園の女児を乱暴した上殺した未曾有の異常少年犯罪は、この少年も社会の歪から発生した犠牲者ともいえる。その他子供の家庭内学校内暴力、異常行動、非行化が激増し大きな社会問題とされているが、その原因は何であるかを、我々大人はもう一度原点に戻って、反省し思考すべきではなからうか。

教育とは、家庭教育、社会教育、学校教育の三つの柱が互いにバランスを保つてこそ成果が上がるもので、「現代の文明は、豊かさや貧しさとのアンバランスをもって、人間の野獣化を促進させるがために招いた悲劇である」という評論家もいるが、家庭における親と子の絆の貧しさは、対話の不足(今の高校生は「飯、金、ウルサイ」の三語が親子対話の主な言葉とか)に加えて、子供に対する過度の期待による抑圧が拍車をかける。

学校では、知育、体育の豊かさに対して、徳育の貧しさは、教師と生徒との絆をますます遠いものとして、教師はPTAやその他との難問題をかかえて懊悩し、子供は、教師を尊敬しなくなる。

かつて放課後も子供達とボール投げに興じたり、居残り勉強に手をかして呉れた、あの優しい先生は何処へ行ってしまったのであろうか。

また一方、栄養過多による学童の、肥満・糖尿病や、腎炎・脊椎側彎症、が重大な問題となっているが、これらに対してこそ、我々女医はプライマリケアの一環として、真剣に取りこんで行くべきであらう。

ともあれ、何かが狂っている現代において、人と人との心のふれあいを一番大事にして行きたいと、しみじみ思う今日この頃である。

第二十五回日本女医会総会が、近づいて参りました。

群馬県支部の皆様の大変なお骨折りで準備も着々と進んでいる由「格調高くそして和やかなムードで」との岸支部長のお言葉の通り、総会では、お互いに忌憚のない意見を交換して諸問題を討議し、平敷先生のご講演を拝聴し、懇親会では、旧交をあたため、和やかに楽しい夜を期待しつつ、緑したたる上州の山、山の風物を胸に画いて、皆様にお目にかかれる日を楽しみにいたしております。

この頃思うこと…………… 福永ひろ子…………… 1

インドシナ難民を助ける会への入会について…………… 三神 美和…………… 2

国連NGO国内婦人委員会について…………… 山崎 倫子…………… 3

Circular Letter No. 58…………… 山崎 倫子…………… 3

外国のお友達…………… 小野 春生…………… 4

渉外部の報告…………… 竹内 静香…………… 4

支部展望 中国地方…………… 保田 正子…………… 5

山口だより…………… 保田 正子…………… 5

忙中閑…………… 鈴木 文子…………… 6

趣味のあれこれ…………… 鈴木 文子…………… 6

理事会議事録(十二月、一月、二月)…………… 6

会員動静…………… 8

編集後記…………… 8

目次

「インドシナ難民を助ける会」

への入会について

会長 三神 美和

昨年七月、相馬雪香女史よりお電話があり、この度インドシナ難民を助ける会を民間レベルで発足したいので、発起人になって欲しい、医療の手をかりたいことがたくさんあるので、ぜひお願いしたいということでありました。インドシナ難民を助ける会の設立趣意書は次の通りであります。

国連は「難民国際会議」を七月二十日ジュネーブで開き、この問題を世界的規模で取り組むことになりました。今アジア諸国に滞留している難民の数は約三十六万人、世界の受入数は、十九万七千人(六月末日現在)ということになっていきます。日本政府は、国連難民弁務官事務所(UNHCR)の経費の半分五千万ドルを負担すること、また五百人の受入をすることを発表しました。この日本の態度は、お金ですまそうとして、欧米諸国から強い批判を浴びております。その上政府の定住の条件がきびしく、この枠の消化も容易ではありません。これからの世界は、共助と奉仕の心によって支えられるものと信じる私どもは、国を失ない、

行く先もなくさまよう人達に対する思いやり、いたわりの心を何らかの形で具体的に現わしたいと存じます。それで日本に定住したいという人々の受入について行政では手の届かないさまざまな障害をとり除くお手伝いをするために、民間の力を結集したいと「インドシナ難民を助ける会」を設立しました。われわれの趣旨をご理解いただき広く各界各層にわたるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

相馬雪香女史はご存じのことと存じますが、憲政の父尾崎聖堂翁の娘さんで、昨年六月香港で難民の悲惨さを見聞し、村井前早大総長を始め多くの方々に呼びかけ、発起人会をつくろうとしておられたのであります。瘦身に似あわず、精神力の強い方と見受けられ、八月三日発起人会を開き、精力的に会の設立に努力されました。発起人会へは、私は都合がつかず、副会長の福永先生に行っていたいただきましたが、先生も相馬女史の熱意に感動されたようです。十一月二十四日午後一時から日本青年会館で盛大な設立総会が行われ、会長に相馬雪香氏、副会長に村井資長氏が選出され、外務省タイ日本大使館参事官の小野寺龍二氏によってタイにあるカンボジア難民キャンプの現地報告がなされ、出席者一同深い感銘をうけました。その後、理事十四名、監事二名が決定されたとの報告があり、監事の一人に私の名前がありました。会合にも度々出られない状態ですが、決定された以上引き受けねばならないと思います。それ程日本女医学会に大きな期待を持って下さるものと考え、私はとりあえず会のための資金作り(募金)に力を入れようと思っております。設立総会には、日本女医学会から、渉外部の竹内静香氏、佐野アヤ子氏も出席され、個人会員として加入されました。

その後、目下の目標として、五十五年三月末日までに、一億一千万円の募金をするに決定されたとの通知がありましたので、十二月の日本文女医理事事に報告し、早速出席理事の方々からご寄付をいただき、また個人会員の申し込みをいただきました。医療品、衣類などもご寄付の対象になっていきますが、現地に人を派遣するにも、内地の難民の救済にも、先立つものは資金でありますので、とりあえず資金を集めることが焦眉の急といえましょう。

この運動は国民の一人一人の温かい心をいただく意味で、一人の金額は少額でも、多くの方々からご寄付をいただくのが本意であります。私

は至誠会東京都支部新年会の時、ご出席の各人から浄財をいただき、至誠会第二病院の全従業員からいただき、また東京女子医大の教授会を始め各医局、事務の方々いたるまで募金に応じられ今までに四十五万円余を「助ける会」に送りました。本会の当面の運動目標は次の通りです。

- 一、日本の難民への援助
- ① 難民キャンプへの援助
- ② 定住者を受入れる援助
- 二、流民と元留学生への援助
- 三、渉外難民への援助
- 東南アジア難民キャンプを中心として資金、医療品など援助を行う。
- 四、募金運動、チャリティ運動、与論喚起のための宣伝活動を行う。

聞くところによれば、会にはボランティアの希望者の申し込みが多く来ており、現地ボランティア希望者二百六十八名に達し、そのうち確かな返事のあったもの一二二名、その中から近く十二名を、タイ、マレーシアの難民キャンプに派遣することになったとのことです。日本人の心の温かさを示すものと思えます。日本女医学会も、公益法人の面からも、国内国外にひろがるこれら社会問題にとり組み、出来る限りの援助の手をさしのべたいものと思えます。会員の皆様の共感と共鳴、ご援助を切にお願い申し上げます。

国際女医学会第十七回 国際会議参加のお誘い

ご承知の通り国際女医学会第十七回国際会議は、今年八月十七日から二十三日まで英国のパーミンガムで開催されます。

今回の国際会議参加旅行には、日本交通公社と阪急交通社の二社を指定し、それぞれ三つのコースを作成し、会誌八十号に掲載いたしました通りでございます。すでに参加申し込みをいただいておりますが、会員からの強い要望により国際会議のみに出席する短かいコースを左記のとおり、日本交通公社Dコースとして追加いたしましたので、ご検討の上、日本女医学会事務局か日本交通公社に五月末日までにお申し込みいただきたくお待ちいたしております。

日本交通公社

国内・海外団体旅行日本橋支店
担当者 外川(03)二七四六八一七
Dコース

旅程 東京(機中泊)→ロンドン
→パーミンガム(六泊)→ロンドン(一泊)→(機中泊)東京
期間 昭和五十五年八月十六日～二十五日 十日間
登録費及び雑費 八万円
経費 約五十七万円

国連NGO国内婦人委員会について

副会長 山崎 倫子

この会は国際連合の経済社会理事会(Economic and Social Council)にNGO(Non Governmental Organization)非政府機関として認められている国際的組織を有する婦人団体に加盟している日本の婦人団体により、国連関係の問題に協力するため、昭和三十二年(一九五七)に結成された委員会です。

社団法人大学婦人協会、日本汎太平洋東南アジア婦人協会、婦人国際平和自由連盟日本支部、日本法律家協会、日本婦人有権者同盟、財団法人日本基督教婦人矯風会、日本キリスト教女子青年会(YMCA)、社団法人日本看護協会、日本有職婦人クラブ全国連合会、社団法人日本女医学会、以上の十団体が現在参加しています。

本会は国際連合の憲章に示された目的実現のため国際連合及び国際連合関係諸機関に協力することを目的として、(1)国連についての理解を深めその啓発、宣伝につとめる。(2)国連、国連関係諸機関に関し日本政府に対し必要に応じて意見を表現する。(3)国連、国連関係機関への代表に婦人を加えるよう日本政府に要求、そ

の実現につとめる。(このことについては、昭和三十二年、第十二回国連総会に藤田たき女史を送って以来、また経済社会理事會に属する。婦人の地位委員会にも第十二回以来、毎年婦人の代表を送っている。(4)国連、国連関係諸機関職員として日本婦人を採用するよう努力する。(5)人権及び婦人に関する諸条約の国会承認批准に努力する。(6)(7)は省略等の運動を行っています。

先般第三十四回国連総会に、大学婦人協会会長、中村道子氏が日本政府代表代理として出席しました。

昨年十二月十八日の総会で「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」が一三〇カ国の賛成で可決、採択されました。もちろん日本政府も賛成しましたが、まだこの条約の批准のためには国会の承認を得なければなりません。

この条約は三十条から成り、「子供の養育は男女と社会全体の責任であり、婦人の出産における役割が差別の根拠であってはならない」という基本的立場から「男性の伝統的役割に改変が必要である」と前文に明言しています。この条約文については

NGO委員会で勉強を始めています。

一九八〇年は、国連婦人の十年の中間年に当るので国連主催の世界会議がコペンハーゲンで開かれることになりました。これに時を同じゅうして、NGO主催、国連及びデンマーク政府後援で、国連婦人の十年、中間年NGOフォーラムが七月十四日から三十日までコペンハーゲンで開催されます。(参加者に関しては若干の規制あり)

これを記念して、国内四十六の婦人団体が合同して四月十二日には婦人会議を、十一月十五日には、国連婦人年中間年婦人大会を開催すべく準備を進めています。政治、教育、労働、家庭、福祉等各分野における調査研究、問題提起の検討等、実行委員会、分科会等会を重ねています。毎回出席は不可能ですが、一応福祉分科会に参加しています。

以上NGO関係について報告します。

Circular Letter No.58

国際連絡書記 山崎 倫子(訳)

一、バーミンガム会議の準備は着々進行中です。登録用紙A B共記入の上、登録費、宿泊費、諸経費を英国女医学会本部に送金して下さい。

二、学術委員会にすでに一〇〇余の演題申し込みがあるが時間の都合で全てを口演することは不可能です。幾つかの論文は紙上発表になります。

三、すでにご連絡した通りお土産店を設けるので、参加者は各自忘れずにお国柄を現した素敵なお土産を持参して下さい。売上金はMWIAの経理を補助します。

四、総会は八月十九日(火)と二十二日(金)の二回開かれます。二十二日の総会後直ちに閉会式が行われます。今年も五十年会員を表彰しますので、調査の上氏名を連絡して下さい。

五、Dr. Cornerの努力でMWIAのパンフレットが内容も新しく新しい装訂で印刷される運びとなりました。これは医師、非医師にかかわらず、国内、国外の諸団体役員、または関係者に貴重は資料となることでしょう。また、Dr. norani が数年前発行したMWIAリーフレットも新しい資料を加えて、色も明るいオレンジ色に生まれ変わった改訂版として印刷中です。

八、一九八二年の第十八回国際女医学会は、一九八二年十一月二十一日から二十七日迄、フィリピン、マニラの国際会議場で開催されることに決定した。テーマは「Humane management in medicine」。

九、一九八四年の第十九回国議を主催して下さい。国からの招待を願います。またテーマについても提案をTopic Committeeに提出して下さい。

十、Mrs. Dax と私 (Dr. martha Kvie) は一九八二年のマニラ会議を最後に引退することを理事会に報告しましたので皆さんにもお知らせして置きます。

外国のお友達

国際女医会財務委員長 小野 春生

先日、広報部からお電話で渉外の特集を発行なさるので何か外国女医との交流について書くようおっしゃって下さいました。私は国際交流をととても大切にします。その人を通してその国を理解することが出来ると同時に日本及び日本人をわかってもらえるからです。国際女医学会の目的も国際交流が含まれています。会がある度に出来るだけ多くのお友達を作るよう努力しております。これは決してむずかしいことではございません。何時も私と気があいそうな方はいらっしやらないかと目を大きく見開いております。むこうから近よっていらっしやるのを待てませんのでこちらから声をかけることが多いようです。外国語は上手でなくともお互いに理解しようとする気持ちが大切かと存じます。出来れば年に数回手紙を出せば良いのですが、ついついさぼって残念ながら年一度のクリスマスカードだけになりがちです。がお互いにこれをゆるしあえるのが面白いことです。この方々を通してわかることは北国の方はもの静かで忍耐強く、日光がサンサンとあたる国の方はほからかです。でも女医には何か共通したものを感じます。

小児科から見ますと日本の母親は子供の病気が治りかけるとすぐお風呂に入れたがりです。これは湿度が高く、水が日本には豊富にあるためでしょうか、多くの日本人はお風呂に入るのが好きです。そのためか子供も入れてやりたくなるのでしょうか。外国特に北国の方はまず子供を外に出してよいか問います。日光が少い北国では出来るだけ子供を外に出しなかります。

性格の違いを感じますのは外人は子供が熱を出しても検査の結果が出るまで抗生物質を投与せずに解熱剤だけでじっと我慢しています。下痢も重症脱水さえおこしていなければ便培養の結果が出るまで人參のゆで汁等で待っているのは実に大陸的だと思います。日本人はなぜせっかちなのでしょうか。中でも私は他の方に輪をかけてせっかちなのは江戸っ子のせいでしょうか。島国のために気が小さいのでしょうか考えさせられます。

昨年の秋には国際女医学会の前会長のデルムンド先生(フリリッピン)、今の副会長のピーターセン先生(ノルウェー) お友達のエーグ先生(ノルウェー)、英国医師会長のバーンズ

渉外部の報告

渉外部 竹内 静香

三神会長より、『大乗的な考え方に立って、一致協力社団法人としての事業を推進したい。』との年頭の辞があり、また昨年第二回研修会における国弘正雄氏の「Therapeutic」の視野での行動を」との講演がありました。その実践の場が与えられたように、お手伝いの出来る機会にめぐまれました。

国内交流

一、インドシナ難民を助ける会に加盟。三神会長のご報告通り早速募金を開始。日本女医会役員から二万六千円。事務局職員の皆様のご協力で四千円。別に個人会員として渉外部全員を含め九名の理事が加入。熱海地区からも十八名加入(個人会費三千元)一円募金九千五百円。先に三神会長の報告の金額と合せ六十万円余をお送りすることが出来ました。

二、国連婦人年中間年婦人大会実行委員会に加盟。山崎副会長の報告の通りであります。

三、日本ユニセフ協会へ国際児童年に際し百万円を寄付。昨年十二月十四日山崎副会長のお供をして古垣鉄郎会長、橋本正専務理事、大

島清子常務理事にお会いして世界のめぐまれぬ子供達へ少しでもお役に立てばとの日本女医会の気持ちを伝えました。

四、日本文化協会光のプレゼント委員会に例年通り一万円の寄付をしました。

五、社会福祉法人浴風会へ一万円の寄付をしました。

国際交流

昭和五十四年四月十日中華人民共和国全国人民代表大会代表団歓迎会がホテルニューオータニにて行われ添田先生が出席しました。



モラニー先生をかこんで

元国際女医会長

昭和五十四年五月二十五日 Dr. Morani が中国訪問の途中来日され佐野理事と有志の先生方で歓迎会を行いました。

昭和五十四年九月二十四日ホテルオークラ 山里 Dr. Patricia Tudbury (東京で行われた第十五回国際女医学会の学術委員長) の歓迎会を行いました。三神会長、山崎副会長、久保田常任理事、小野先生、中村先生、渉外部より佐野理事、平瀬理事と共に出席致しました。

昭和五十四年十月六日新橋中華料理店で Dr. Trinidad Gomez (西太平洋国際女医学会副会長) の歓迎会を行いました。三神会長、山崎副会長、小野先生、中村先生、渉外部より佐野理事が出席致しました。

昭和五十四年十月二十八日国際婦人科学会出席のため来日されました。 Dame Josephine Barnes (英国医師会長) と Dr. Fedelmindo (一九六六年アメリカ会議元国際女医学会長) の外三名の女医の方々と「留園」において、会食をしました。三神会長、山崎副会長、小野先生、中村先生、渉外部より佐野理事が出席しました。

昭和五十四年十一月日本国際交流基金主催のレセプションに佐野理事が出席しました。各界の女流の方々との交流を行いました。以上、列記致しましたが期日が前からわかっていないため、皆様にお知

らせ出来ないのが残念でした。

国際女医学会第十七回国際会議が八月十七日から二十三日まで英国のバーミンガムで開かれます。国際交流のよい機会ですので多数参加されま

すようお願い致します。「われら人間コンサート」という世界中の障害を持ったすぐれた音楽家と、心ある健康な音楽家が一堂に会して人間愛がいつばいの音楽会を来年の国連の提唱する国際障害者年に向けて秋山ちえ子氏等が中心になつてはじめられた記事を読み、行動の速さに感動すると同時に、私達も何か事業をすることが出来るのではないかと考えました。ぜひ、皆様のご意見をお寄せ下さい。最後になりましたが、この度の広報部のご企画に感謝申し上げます。

総会へどうぞ

来る五月二十四・五日伊香保温泉において第二十五回総会が開催されます。多数のご出席をお待ちしております。

ところ 群馬県伊香保町 福一旅館 連絡先 〒376 群馬県桐生市相生町二二二七七 岸 直枝

☎〇二七七(五四)八九四九

国連児童基金に寄付

一九七九年、国際児童年に当り、国際会議記念事業基金の中から金百万円を日本ユニセフ協会を通じて、国連児童基金に寄付致しました。貧しく飢えた子供達、特に戦禍を逃れたカンボジア、バキスタン等アジアの子供達に役立てて欲しい旨申し添えました。

山崎副会長、竹内常任理事が持参した日本ユニセフ協会会長古垣鉄郎氏に手渡しました。 山崎記



日本ユニセフ協会にて

支部展望

山口だより

中国地方

山口 保田 正子

桜花間近しの季となりました。日本女医学会の皆様にはお変わりなく、地域でご活躍のことと存じます。さて、当地区の展望ですが、支部とは名ばかりの、十数名の女医が細々と会費を納めているものの、組織というには、余りにも微弱な存在でございます。

全山口県下には、約七十名の女医が、山口県医師会々員として活躍しております。このうち、日本女医学会に加入している者は約三分の一位ではないかと思えます。しかし、実は、本部よりいただいた支部運営費より逆算いたしますと、昭和五十四年度に会費を納入したものはわずかに十三名ということです。

昨年度は支部にとりまして二つの記録すべき事がありました。その一つは、斎藤仁代先生の叙勲であり、もう一つは村上晶子先生のご逝去でした。

そして年一回の支部会を昨年六月十七日に下関地区のマリンホテルで開催しましたが、その日の出席会員は、布浦まつ子(大正十三年卒)、斎藤仁代(昭和二年卒)、島本まさ子(昭和三年卒)、岡山ヒデ子(昭和八年卒)

行徳英美(昭和十八年卒)、島本道子(昭和十九年卒)、保田正子(昭和二十五年卒)、の七名及びすでに退会された方五名も合流してやつと十二名が集まりました様なことでございます。したがって、支部としての活動は何等やっておりますので、全くのところ同業、同窓の顔合せというにすぎず、お恥ずかしい次第です。

私の知る限り、お互いの女医の間では何の対立もなくそれぞれの持場で充分な活動をしておられますが、日本女医学会山口県支部としての会の存続はもはや無意味という意識の方が大勢を占めてしまっております。

男医、女医の別なく、医師会活動は一本でゆけると言う信条に基く時代の流れではないかと思えます。この事は、日本女医学会を愛し、何とかの事のある姿にと夢をもっていた者にとつては心ざびしいことです。

せっかくなの紙面をこの様な文章で埋めることは大変に心苦しいのですが、これが山口県の現況でございます。

忙中閑

趣味のあれこれ

鈴木文子先生(港支部)の紹介

もの静かな口調で「手先の事が好きなので」と事もなげに話された先生は、水墨画、書道、鎌倉彫りと多趣味でおられる。そしてそのほとんどは仕事を終えられてからの夜の時間を利用されるとか。創作に熱中すると、おもわず夜明けを迎える事も屢々との事でした。

ある日、先生のご趣味多様な事を聞き、本誌への掲載をお願いしたところ、快くご協力頂き厚くお礼申し上げます。

会員諸先生のご投稿を歓迎します。

広報部

水墨画 涼風



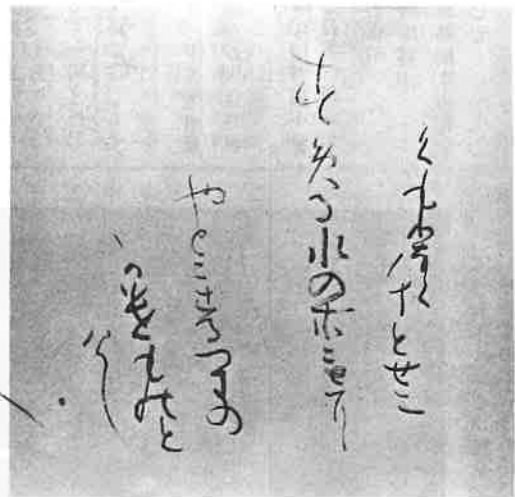
風峰



鎌倉彫



島々や千々にくだきて夏の海
華峰



屏風

くもりなくちとせにすめる水のおもによどれるつきのかげものどけし
光盈

理事会議事録

日時 昭和五十四年十二月二十二日

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

- 三神、柳瀬、山崎、稲葉、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、大原、川口、川島、川那部、佐野、鈴木、平瀬、藤田、マッキンストリ、森川、山本、今野、添田
- 欠席(敬称略)
- 福永、小俣、尾中、斉藤、清水、野口、野呂、蓮井、藤井、山口、

庶務報告

久保田常任理事

11月17日 常任理事会、国際女医学会記念事業基金運営委員会、理事会を行う

11月21日 国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会に

山崎副会長出席

11月24日 インドシナ難民を助ける会に三神会長、竹内常任理事、佐野理事出席

12月8日 帝国劇場にて前進座「大石内蔵助」を観劇する

12月14日 日本ユニセフ協会(国際連合児童基金)へ寄付するその他

・故鶴沢とも先生ご遺族より香典の礼状あり

・故湯本アサ先生の至誠会保育園葬儀の際の供花弔辞の礼状あり

養の品あり
・山崎拓氏より厚生政務次官を退任の挨拶あり
・厚生大臣野呂恭一氏、厚生政務次官今井勇氏、厚生省医務局長田中明夫氏より就任の挨拶あり

森川理事
十一月分別紙どおり 承認

議 題

一、定款細則について
定款施行規則を順次検討する

二、国際女医学会記念事業基金運営委員会について

(1)日本ユニセフ協会(国際連合児童基金)へ百万円寄付した

(2)運営委員会の時に庶務担当者を決める

三、昭和五十五年度事業計画及び予算案について
次回一月の理事会までに、各部より昭和五十五年度予算額を提出していただきたい

報告事項

(1)国際連絡書記報告

(2)国際女医学会参加申込者は、旅行費用とは別に登録費及び雑費として六万五千円を日本女医学会事務局へ支払ってもら

(3)旅行業社は、日本交通公社、阪急交通社とし、他の業社は特別の場合のほか原則として認めない

(1) 登録は、日本女医会を通すこと

(2) インドシナ難民を助ける会について
「インドシナ難民を助ける会」に団体として当会で入会し、入会金一万円を支払う
一般会員に寄付金を願う。また疾病として熱帯マラリア、結核が多く、マラリアではキニーネが欠乏しているので早期に医療品の送付を希望している

(3) 前進座観劇会収支報告
十二月八日観劇会を盛会に終了した報告あり
・券売上げ金 二百九十九万三千円
・前進座支払い及び通信費 百七十二万四千六百五十円
・差引純利益 四十六万八千三百五十円

(4) 労働省婦人少年局より「婦人の十年」に関して
・一九八〇年に男女平等、婦人の地位向上をめざして四月と十一月に会を開催する
・国際婦人年の中間行事
・テーマ「雇用・健康」

(5) 講座開催のお知らせ
主催 国立婦人教育会館
講師 東京大学教授
中根千枝氏
テーマ 国際社会と日本人
——広い世界とのつながり——
日時 昭和五十五年一月二十六

日(土) 午後二時~四時

会場 国立婦人教育会館

(6) コロンビア大学図書館より「女医の実態調査」寄贈に対する礼状あり
以上 久保田くら
松岡 宏子

日時 昭和五十五年一月二十六日

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川口、齋藤、清水、鈴木、野口、蓮井、平瀬、藤田、森川、山本、添田、山口

欠席(敬称略)

尾中、大原、川島、川那部、佐野、野呂、藤井、マッキンストリ、今野

庶務報告

松岡常任理事

12月22日 常任理事会、理事会を行う

1月16日 事務所移転準備委員会を行う

その他
・故里見アイ先生ご遺族より香典の礼状あり
・故本位田和枝先生ご遺族より香典の礼状と供養の品あり
・「〇〇東京支局長退任の工藤誠爾氏と就任の久野木行美氏の挨拶状あり

会計報告

蓮井理事

十二月分別紙どおり 承認

議題

一、定款細則について
順次検討する

二、昭和五十五年度事業計画及び予算案について

事業部
へき地診療への助成 六十万
公衆衛生 十万
支部助成 五十万

学術部
講演研修費 七十五万
研究助成費 二十万

広報部
機関紙 二百二十万~二百三十万
渉外部
渉外費 四十万

庶務部 管理費
俸給諸給諸手当 八百四十万
法定福利費 五十万
厚生福利費 十万

会議費 二百万
旅費交通費 百五十万
通信費 二百五十万

什器備品費 三十万
消耗品費 四十万
印刷費 百万円

事務所賃借料 四十八万
管理費 七十五万六千
慶弔費 二十万

顧問料 三十万
租税公課 一万
年金経費 二十万

雑費 二十万

交際費 十五万

名簿引当金 百万

退職積立金 五十万

・決算書の勘定科目、中科目は各部ごとにとまとめる
・交際費を雑費と一緒にする

三、その他
(1) 事務所移転について
物件について事務所移転準備委員会より報告あり

・場所 新宿区西新宿一―一―

六
・名称 ミヤコ新宿ビル
・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、地下二階、地上十二階建

種々検討の結果、経済的に無理との結論が出た

(2) 社会福祉法人浴風会よりお年寄りの福祉と老人医療の向上のために支援を賜りたいとの件について 一万円寄付する

(3) 厚生省医務局医事課より日本女医会年金規定を送付してほしいとの件について
年金委員会に許可を得ること

(4) 研究助成について学術部で今後検討してもらう

(5) 昭和五十五年吉岡弥生賞は、申し出がない

(6) ルーペンダン価格について
別表のとおり十八金製の価格の値上りがある、マージンについても検討してほしい

(7) 国際女医会議について
・国際女医会議参加者数は、現在

在のところ五十五名あり

・登録費、雑費六万五千円と旅行社に支払う申し込金十万円を一緒に日本女医会へ支払ってもらう

・国際女医会議参加だけの短い旅行コースを旅行社につくってもらう

(8) 総会について
総会出席予定者は、一三七名、この他に群馬支部で三十名位出席する予定である

(9) 常任理事会、理事会の開催日は毎月第四土曜とする
四月は第三土曜日の十九日

(10) 常任理事会、理事会出席者に旅費交通費を支払う

(11) 文京支部長の久保松代先生に支部会の開催を依頼していただくこととする

報告事項
一、国連婦人の十年——婦人と学習を考える集いの講演について——

主催 国立婦人教育会館
講師 緒方貞子氏
日時 昭和五十五年二月二十日
(水) 午後二時~四時

会場 国立婦人教育会館

二、厚生省医務局医事課企画法令係より民法法人の監督の強化
休眠法人整理等の民法施行法一部改正が制定されたので、改正の趣旨を理解し、運営の適正を願うとの連絡あり

三、日本ユニセフ協会より寄付金

の感謝状あり

以上 久保田くら
松岡 宏子

常任理事会議事録

日時 昭和五十五年二月二十三日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)
三神、福永、柳瀬、稲葉、小俣、
久保田、竹内、野沢、松岡、丸山、
守安、八木
欠席(敬称略)
山崎、佐藤

庶務報告

久保田常任理事
1月26日 常任理事会、理事会、
新年会を行う
1月28日 厚生省医務局医事課に
日本女医学会年金規定書を提出す
る
1月30日 日本女医学会誌八十一号
発送

2月13日 インドシナ難民のため
のチャリティーパーティーに三
神会長出席
その他
・故柳沢浜子先生、故小宮福枝先
生ご遺族より香典の礼状あり

会計報告

守安常任理事
承認
一月分別紙どおり
以上 久保田くら
松岡 宏子

会員動静

入会会員(敬称略)

青森支部 前田由子
都下支部 高野文江
佐賀支部 橋本千珠子
新卒入会会員(敬称略)
東女医 前田礼子
帝京大 高橋信子
慈恵医 薄井紀子
退会会員(敬称略)
北海道支部 高階美恵子 末吉実
子 小山陽子
山形支部 羽賀久子
茨城支部 中野愛 平塚まさ
藤田よし江
千葉支部 渡辺芳子
品川支部 大堀ふさ子
渋谷支部 角谷祐子 岩瀬教子
新宿支部 宇津木沢ひかり
世田谷支部 河野英子
中央支部 谷口量子
豊島支部 上原すず子
練馬支部 阿曾滋子 後町暁子
文京支部 鈴木福子
港支部 牧ゆり子
都下支部 上高嘉納子
神奈川支部 簡雪子 坂本春子
静岡支部 河井芳枝
愛知支部 篠辺のぶ 清水胤子
長野支部 山岡邦子
岐阜支部 岡田孝子 渡辺一美
三重支部 池上幸 吉田多賀代
大阪一支部 大津信子
大阪六支部 原静代 西素子
大阪七支部 小野あや

大阪九支部 土井千佐子
京都支部 柴田君代 田中さだ
阿原敦子
兵庫支部 藤田寛子 秋岡淑子
胡中久枝
岡山支部 小川寿子
広島支部 柴原松子
大分支部 宇都宮廉子 村上尚子
会員物故者(敬称略)
計報に接し哀悼にたえず謹しんで
ご冥福をお祈りいたします。
茨城支部 松岡志ん
杉並支部 小宮福枝
世田谷支部 今井久子
台東支部 柳沢浜子
兵庫支部 小山美佐尾
里見アイ
岡山支部 本位田和枝

寄贈図書及びパンフレット案内

全国婦人新聞 憐全国婦人新聞社
第五九一号、第五九八号
協会ニュース 日本看護協会
第一六七号、第一六八号
月刊前進座 前進座
第三五八号、第三六〇号
全官報近刊ニュース 政府刊行物普
及サービス部 №一三三、一三七
婦人展望 婦選会館出版部
第二九二号、第二九四号
えがかりて 総理府婦人問題担当室
十号
会館だより 国立婦人教育会館
第八号

編集後記

今年ほど満開の桜の花を美しいと感
じたことはなかったように思われます。
雨、風のため、ちょうど雪のように空
を舞い、散った花びらを眺めて、よけ
いにそう感じたのかもしれない。学
生の頃、志賀直哉先生の「桜の咲く
は春である」という書き出しに始まる
文章にひどく感激し、「私達は、今、
人生の春なんだ」と張り切った作文
を書いたことを、なつかしく思い返し
ながら、やっと会誌第八十二号を無事
発行できるよろこびをかみしめてお
ります。
ご多忙中の諸先生方にご無理をお願
いしてご寄稿賜りましたおかげと深く
深く感謝申し上げます。
日本女医学会が国内外の多くの社会問
題とも取りくみ、対外的にも大変に活

躍をし、「インドシナ難民を助ける会」
および「国連N.G.O.国内婦人委員会」
にも参加し、さらに国際児童年には、
金百万円を国連児童基金に寄付するこ
とができました。この様なことを思う
時、ぜひ会員の皆様にご報告申し上げ
ご理解いただかなければとやむにやま
れぬ気持になり、三神会長始め、山崎
副会長、渉外部竹内先生に、くわしい
ご報告をお願いし、また元国際女医会
長小野先生の国際女医会員との心温ま
る友情やおもてなしのご様子をおし
らせたいただき、渉外部の特集とでもさせ
ていただけたらと考えた次第です。し
かし山程ある企画にも限られた期日、
紙面の関係上、思うことの方分の一も
お届けできないようなはがゆさを私自
身感じております。
支部展望(中国地方)では山口県保
田先生より近況をおしらせいただき有
難う存じました。岡山、広島、鳥取、
高根の先生方、次の機会にはぜひご寄
稿お願い申し上げます。
忙中閑には鈴木先生の多彩なご趣味
をご披露させていただき大変うれしく
存じます。会員諸先生方のご自由な投
稿を心からお待ち致します。
群馬県伊香保温泉での総会には、皆
様とお目にかかるのを今から楽しみに
いたしております。(野澤記)

昭和五十五年四月二十日 印刷
昭和五十五年四月二十五日 発行
編集人 野 沢 良 美
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都新宿区
市谷河田町19
社団法人 日 本 女 医 会
TEL (341) 〇九六八
印刷所 東京都文京区本駒込
一七七一十五
株式会社 北 斗 社